

学校法人愛知学院寄附行為

第一章 総則

(名称)

第一条 この法人は、学校法人愛知学院と称する。

(事務所)

第二条 この法人は、事務所を愛知県名古屋市千種区楠元町一丁目 100 番地に置く。

(運営の基本)

第三条 この法人の運営は、私立学校法その他の法令及び曹洞宗宗制に規定するもののほか、この寄附行為の定めるところによる。

第二章 目的及び事業

(目的)

第四条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り学校教育を行い、有為な人材を育成することを目的とする。

(設置する学校)

第五条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

一 愛知学院大学

大学院 文学研究科 心身科学研究科 商学研究科 経営学研究科 経済学研究科

法学研究科 総合政策研究科 歯学研究科 薬学研究科

大学 文学部 宗教文化学科 歴史学科 英語英米文化学科 日本文化学科

グローバル英語学科

商学部 商学科

経営学部 経営学科

経済学部 経済学科

法学部 法律学科 現代社会法学科

総合政策学部 総合政策学科

健康科学部 健康科学科 健康栄養学科

心身科学部 心理学科

心理学部 心理学科

歯学部 歯学科

薬学部 医療薬学科

二 愛知学院大学短期大学部 歯科衛生学科

三 愛知学院大学歯科技工専門学校 医療専門課程

四 愛知高等学校 全日制課程 普通科

五 愛知中学校

第三章 機関の設置

(役員、評議員及び会計監査人の設置)

第六条 この法人に、次の役員を置く。

- 一 理事 十一名以上十五名以内
- 二 監事 二名以上四名以内
- 2 この法人に、評議員十二名以上十六名以内を置く。
- 3 この法人に、会計監査人一名を置く。
- 4 評議員の実数は、理事の実数を超える数でなければならない。

(理事選任機関)

第七条 この法人の理事選任機関は、評議員会とする。

- 2 理事選任機関の構成員は、全ての評議員とする。
- 3 監事は、理事選任機関に対し必要な報告を行おうとするときは、理事長に対し、理事選任機関の招集を請求することができる。この場合において、理事長は、理事選任機関を招集しなければならない。

第四章 理事会及び理事

第一節 理事の選任及び解任等

(理事の選任)

第八条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 学長（校長）のうちから評議員会において選任した者 一名
- 二 この法人の職員のうちから評議員会において選任した者 六名以上八名以内
- 三 曹洞宗責任役員会が推薦した者のうちから評議員会において選任した者 三名
- 四 有識者のうちから評議員会において選任した者 一名以上三名以内
- 2 前項第一号に定める理事は、その職を退いたときは理事の職を失うものとする。
- 3 第一項第二号に定める理事は、この法人の職員の地位を退いたときは理事の職を失うものとする。ただし、その場合であっても、退任以後最初に招集される定時評議員会の終結の時までは、なお理事の職を失わないものとする。
- 4 理事選任機関は、それぞれ、理事の数が第一項各号に掲げる数を下回ることとなるときに備えて、補欠の理事を選任することができる。

(理事の資格及び構成)

第九条 理事の選任に当たっては、私立学校法第三十一条に規定する資格及び構成に関する要件を遵守しなければならない。

(理事の任期)

第十条 理事の任期は、選任後二年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。ただし、任期の満了前に退任した理事の補欠として選任された理事の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

2 理事は、再任されることができる。

(理事の定年)

第十一条 第八条第一項第一号及び第二号にて選任した理事は、満七十二歳の属する会計年度に関する定時評議員会の終結の時をもって退任する。

(理事の解任及び退任)

第十二条 理事が次の各号のいずれかに該当するときは、当該理事を選任した理事選任機関の決議によって解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
- 二 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき
- 三 理事としてふさわしくない非行があったとき

2 理事が前項各号のいずれかに該当し、理事の職務の執行に関し不正の行為又は法令若しくはこの寄附行為に違反する重大な事実があったにもかかわらず、当該理事の解任を求める旨の議案が評議員会において否決されたときは、評議員は、当該議案が否決された日から三十日以内に、訴えをもって当該理事の解任を請求することができる。

3 理事は次の事由によって退任する。

- 一 任期の満了
- 二 辞任
- 三 死亡
- 四 第八条第二項及び第三項に該当するとき
- 五 第十一条に定める理事の定年に至ったとき

(理事に欠員を生じた場合の措置)

第十三条 理事は、第六条に定める定数を下回ることとなったときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、後任の理事が選任されるまでは、なお理事としての権利義務を有する。

2 理事のうち、その定数の五分の一を超えるものが欠けたときは、一月以内に補充しなければならない。

第二節 理事会及び理事の職務等

(理事会の構成)

第十四条 理事会は、全ての理事で組織する。

(理事会の権限)

第十五条 理事会は、この法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。

(理事の職務)

第十六条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの寄附行為で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事のうち一名を理事長とし、理事会の決議によって選定する。理事長を解職するときも、同様とする。
- 3 理事（理事長を除く。）のうち十二名以内を業務執行理事とし、理事会の決議によって選定する。業務執行理事を解職するときも、同様とする。
- 4 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。
- 5 業務執行理事は、理事会の定めるところにより、理事長を補佐してこの法人の業務を掌理する。
- 6 理事長が事故や病気等の事情により一時的に職務ができないとき(以下「事故があるとき」という。)に、業務執行理事のうち一名を代表業務執行理事として理事会の決議によって選定することができる。代表業務執行理事を解職するときも、同様とする。
- 7 代表業務執行理事は、理事会の定めるところにより、この法人を代表し、その業務を総理する。代表業務執行理事が選定されない場合であっても、内部的な職務に限り、あらかじめ理事会において定めた順位に従い、業務執行理事がその職務を行う。

(代表権の制限)

第十七条 理事長及び代表業務執行理事以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事の報告義務)

第十八条 理事長、代表業務執行理事及び業務執行理事は、三月に一回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

第三節 理事会の運営

(招集)

第十九条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
- 3 理事長以外の理事は、理事長に対し、会議の目的である事項を示して、理事会の招集を請求することができる。
- 4 理事長が、前項の請求のあった日から五日以内に、その請求の日から二週間以内の日を理事会の日とする理事会の招集の通知を発しない場合には、招集を請求した理事は理事会を招集することができる。
- 5 理事会を招集するには、各理事及び各監事に対して、会議の日時及び場所並びに会議の目的である事項を書面又は電磁的方法により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の一週間前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。
- 7 前二項の規定にかかわらず、理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続を経ることなく開催することができる。

(運営)

第二十条 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。

- 2 前条第二項及び第四項並びに第三十一条第二項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
- 3 前項に掲げるもののほか、理事長が議決に加わることができない場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。

(決議)

第二十一条 理事会の決議は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、この寄附行為の変更の決議は、議決に加わることができる理事の数の三分の二以上に当たる多数をもって行わなければならない。
- 3 前二項の規定にかかわらず、次の決議は、理事の総数の三分の二以上に当たる多数をもって行わなければならない。
 - 一 私立学校法第百九条第一項第一号に定める事由による解散
 - 二 この法人の合併
- 4 理事は、書面又は電磁的方法により理事会の議決に加わることができる。

(業務の決定の委任)

第二十二条 法令及びこの寄附行為の規定により理事会において決定しなければならない事項以外の決定であって、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(議事録)

- 第二十三条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成しなければならない。
- 2 議事録には、議長、出席した理事のうちから互選された理事二人以上及び出席した監事が署名（電磁的記録により作成される議事録にあつては、電子署名。第五十条第二項において同じ。）又は記名押印し、理事会の日から十年間、これを事務所に備えて置かなければならない。

(業務執行理事会)

第二十四条 理事会に業務執行理事会を置く。

- 2 業務執行理事会は、理事会の決定した基本方針に基づいて、その執行にあたるとともに、理事会に提案すべき事項について協議する。
- 3 業務執行理事会に関する規程は、理事会において別に定める。

第五章 監事

第一節 選任及び解任等

(監事の選任)

第二十五条 監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 前項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に防止することができる者を選任するものとする。
- 3 評議員会は、監事の総数が二名を下回ることとなるときに備えて、補欠の監事を選任することができる。

(監事の資格)

第二十六条 監事の選任に当たっては、私立学校法第三十一条第三項及び第六項並びに第四十六条に規定する資格に関する要件を遵守しなければならない。

(監事の任期)

第二十七条 監事の任期は、選任後二年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。ただし、任期の満了前に退任した監事の補欠として選任された監事の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

- 2 監事は、再任されることができる。

(監事の解任及び退任)

第二十八条 監事が次の各号のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
 - 二 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき
 - 三 監事としてふさわしくない非行があったとき
- 2 監事の職務の執行に関し不正の行為又は法令若しくはこの寄附行為に違反する重大な事実があったにもかかわらず、当該監事を解任する旨の議案が評議員会において否決されたときは、評議員は、当該評議員会の日から三十日以内に、訴えをもって当該監事の解任を請求することができる。
 - 3 監事は次の事由によって退任する。
 - 一 任期の満了
 - 二 辞任
 - 三 死亡

(監事の選任若しくは解任又は辞任に関する手続)

第二十九条 理事は、監事の選任に関する議案を評議員会に提出するには、監事の過半数の同意を得なければならない。

- 2 監事は、理事に対し、監事の選任を評議員会の会議の目的とすること又は監事の選任に関する議案を評議員会に提出することを請求することができる。
- 3 監事は、評議員会において、監事の選任若しくは解任又は辞任について意見を述べることができる。
- 4 監事を辞任した者は、辞任後最初に招集される評議員会に出席して、辞任した旨及びその理由を述べるることができる。

- 5 理事は、前項の者に対し、同項の評議員会を招集する旨並びにその日時及び場所を通知しなければならない。

(監事に欠員を生じた場合の措置)

第三十条 監事は、第六条に定める定数を下回ることとなったときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、後任の監事が選任されるまでは、なお、監事としての権利義務を有する。

- 2 監事のうち、その定数の二分の一を超えるものが欠けたときは、一月以内に補充しなければならない。

第二節 職務等

(監事の職務)

第三十一条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

- 一 この法人の業務及び財産の状況並びに理事の職務の執行の状況を監査すること。
 - 二 この法人の業務及び財産の状況並びに理事の職務の執行の状況について、毎会計年度、監査報告を作成し、当該会計年度終了後三月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
 - 三 理事会及び評議員会に出席して意見を述べること。
 - 四 この法人の業務若しくは財産又は理事の職務の執行の状況に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したとき又は不正の行為がなされ、若しくは法令若しくは寄附行為の重大な違反が生ずるおそれがあると認めるときは、これを理事会及び評議員会並びに文部科学大臣に報告すること。
 - 五 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して理事会及び評議員会の招集を請求すること。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、法令又はこの寄附行為により監事が行うこととされた職務
- 2 前項第五号の請求があった日から五日以内に、その請求があった日から二週間以内の日を理事会又は評議員会の日とする理事会又は評議員会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会又は評議員会を招集することができる。

(常勤監事の選定及び解職)

第三十二条 監事のうち一名を常勤監事とし、監事の過半数の合意をもって選定する。常勤監事を解職するときも、同様とする。

(調査権限等)

第三十三条 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、又はこの法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

- 2 監事は、その職務を行うため必要があるときは、会計監査人に対してその監査に関する報告を求めることができる。

- 3 監事は、理事が評議員会に提出しようとする議案、書類その他私立学校法施行規則で定めるものを調査しなければならない。この場合において、法令若しくはこの寄附行為に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、その調査の結果を評議員会に報告しなければならない。

(理事の行為の差止め)

第三十四条 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくはこの寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該理事の行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

第六章 評議員会及び評議員

第一節 評議員の選任及び解任等

(評議員の選任)

第三十五条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 この法人の職員で理事会において選任した者 四名以上五名以内
 - 二 有識者のうちから、理事会において選任した者 二名以上三名以内
 - 三 この法人の設置する学校を卒業した者で年齢二十五歳以上のもののうちから、愛知学院大学同窓会連絡協議会議長(この法人の職員を除く) 一名
 - 四 愛知学院楠交会会長(この法人の職員を除く) 一名
 - 五 弁護士、愛知学院大学後援会会長及び愛知高等学校 PTA 会長のうちから、評議員会において選任した者 一名以上三名以内
 - 六 曹洞宗責任役員会が推薦した者 三名
- 2 前項第一号に定める評議員は、この法人の職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。
- 3 第一項第三号から第五号までに定める評議員は、その職を退いたときは評議員の職を失うものとする。ただし、その場合であっても、退任以後最初に招集される定時評議員会の終結の時までは、なお評議員の職を失わないものとする。
- 4 第一項第三号に定める評議員の選任において、愛知学院大学同窓会連絡協議会議長が、この法人の職員の場合は、愛知学院大学同窓会会長のうちから、愛知学院大学同窓会連絡協議会議長が推薦した者とする。
- 5 第一項第四号に定める評議員の選任において、愛知学院楠交会会長が、この法人の職員の場合は、愛知学院楠交会副会長のうちから、愛知学院楠交会会長が推薦した者とする。
- 6 評議員会は、それぞれ、評議員の数が第一項各号に掲げる数を下回ることとなるときに備えて、補欠の評議員を選任することができる。
- 7 評議員の選任は、評議員の年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないように配慮して行うものとする。
- 8 法令及びこの寄附行為に定めるもののほか、評議員の選任及び解任に関し必要な事項は、評議員選任・解任規程において定める。

(評議員の資格)

第三十六条 評議員の選任に当たっては、私立学校法第三十一条第三項及び第六項、第四十六條第二項及び第三項並びに第六十二条に規定する資格及び構成に関する要件を遵守しなければならない。

(評議員の任期)

第三十七条 評議員の任期は、選任後二年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。ただし、任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

2 評議員は、再任されることができる。

(評議員の解任及び退任)

第三十八条 評議員が次の各号のいずれかに該当するときは、当該評議員を選任したものの決議によって解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
- 二 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき
- 三 評議員としてふさわしくない非行があったとき

2 評議員は次の事由によって退任する。

- 一 任期の満了
- 二 辞任
- 三 死亡
- 四 第三十五条第二項及び第三項に該当するとき

3 評議員は、第六条に定める定数を下回ることとなったときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、後任の評議員が選任されるまでは、なお、評議員としての権利義務を有する。

第二節 評議員会及び評議員の職務等

(評議員会の構成)

第三十九条 評議員会は、全ての評議員で組織する。

(評議員会の職務等)

第四十条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

2 理事会は、次の各号に掲げる事項についての決定をするときは、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

- 一 重要な資産の処分又は譲受け
- 二 多額の借財
- 三 予算及び事業計画並びに事業に関する中期的な計画の作成又は変更

- 四 役員及び評議員に対する報酬等（報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職手当をいう。以下同じ。）の支給の基準の策定又は変更
 - 五 私立学校法第二十三条第一項第四号、第六号（理事会の決議に係る事項を除く。）、第九号（評議員会の決議に係る事項を除く。）、第十一号、第十二号及び第十六号に関する寄附行為の変更
 - 六 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
 - 七 寄附金品の募集に関する事項
 - 八 その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの
- 3 評議員会は、次の各号に掲げる事項について決議する。
- 一 私立学校法第二十三条第一項第四号、第六号（理事会の決議に係る事項を除く。）、第九号（評議員会の決議に係る事項を除く。）、第十一号、第十二号及び第十六号に定める事項を除く寄附行為の変更
 - 二 私立学校法第百九条第一項第一号に定める事由による解散
 - 三 合併

（理事の行為の差止めの求め）

- 第四十一条 評議員会は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくはこの寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの法人に回復することができない損害が生ずるおそれがあるときは、監事に対し、第三十四条の請求を行うことを求めることができる。
- 2 前項の場合において、当該行為によってこの法人に回復することができない損害が生ずるおそれがあるにもかかわらず、評議員会において前項の請求を行うことを監事に求める旨の決議が否決されたとき、又は当該請求を行うことを監事に求める旨の評議員会の決議があった後遅滞なく当該請求その他の手続が行われないときは、評議員は、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

（責任追及の訴えの求め）

- 第四十二条 評議員会は、役員、会計監査人又は清算人が任務を怠ったことによってこの法人に損害が生じた場合には、書面又は電磁的方法により、理事長（理事の責任を追及する場合には監事）に対し、役員、会計監査人又は清算人の責任を追及する訴えの提起を求めることができる。

第三節 評議員会の運営

（開催）

- 第四十三条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後三月以内に一回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招集）

- 第四十四条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員の総数の十分の一以上の評議員は、共同して、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。
- 3 評議員の総数の十分の一以上の評議員は、共同して、理事長に対し、一定の事項を評議員会の会議の目的とすることを請求することができる。この場合において、その請求は、評議員会の日の三十日前までにしなければならない。
- 4 評議員会を招集する場合には、理事会において、次に掲げる事項を定め、評議員に対し、書面又は電磁的方法（評議員の承諾を得た場合に限る。）により通知しなければならない。
 - 一 会議の日時及び場所
 - 二 会議の目的である事項があるときは、当該事項
 - 三 会議の目的である事項に係る議案（当該目的である事項が議案となるものを除く。）について、議案が確定しているときはその概要、議案が確定していないときはその旨
 - 四 私立学校法施行規則で定める事項
- 5 前項の通知は、会議の一週間前までに発しなければならない。

（評議員による招集）

- 第四十五条 前条第二項の規定による請求があった日から三十日以内の日を評議員会の日とする評議員会の招集の通知が発せられない場合には、同項の規定による請求をした評議員は、共同して、文部科学大臣の許可を得て、評議員会を招集することができる。
- 2 前項の評議員は、その全員の協議により、前条第四項各号に掲げる事項を定め、他の評議員に対し、書面又は電磁的方法（他の評議員の承諾を得た場合に限る。）により通知しなければならない。
 - 3 前項の通知は、会議の一週間前までに発しなければならない。

（監事による招集）

- 第四十六条 第三十一条第二項の規定により監事が評議員会を招集する場合には、監事は第四十四条第四項第一号、第二号及び第四号に掲げる事項を定め、評議員に対し、書面又は電磁的方法（評議員の承諾を得た場合に限る。）により通知しなければならない。
- 2 前項の通知は、会議の一週間前までに発しなければならない。

（招集手続の省略）

- 第四十七条 前三条の規定にかかわらず、評議員会は、評議員の全員の合意があるときは、招集の手続を経ることなく開催することができる。

（運営）

- 第四十八条 評議員会に議長を置き、評議員の互選によって定める。

（決議）

- 第四十九条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、議決に加わることができる評議員の数の三分の二以上に当たる多数をもって行わなければならない。
 - 一 監事の解任

二 私立学校法第九十二条第一項に規定する決議

- 3 前二項の規定にかかわらず、役員又は会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任を免除する決議は、議決に加わることができる評議員の全員一致をもって行わなければならない。
- 4 評議員は、書面又は電磁的方法により評議員会の議決に加わることができる。

(議事録)

第五十条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成しなければならない。

- 2 議事録には、議長、出席した評議員のうちから互選された評議員二人以上及び出席した監事が署名又は記名押印し、評議員会の日から十年間、これを事務所に備えて置かなければならない。

(役員の出席等)

第五十一条 理事長、代表業務執行理事、業務執行理事及び監事は、評議員会に出席しなければならない。なお、必要に応じて、理事（理事長、代表業務執行理事及び業務執行理事を除く。）は出席することができる。

- 2 理事長、代表業務執行理事、業務執行理事及び監事は、評議員会において、評議員から特定の事項について説明を求められた場合には、当該事項について必要な説明をしなければならない。

第七章 理事会と評議員会の協議

(理事会及び評議員会の協議)

第五十二条 法令又はこの寄附行為の定めるところにより理事会の決議及び評議員会の決議を必要とする事項について理事会と評議員会の決議が異なる場合、理事長は、更に審議を尽くすために、当該事項を会議の目的である事項として、再度評議員会を招集することができる。

- 2 理事長、代表業務執行理事及び業務執行理事は、前項の評議員会に出席し、前項の事項に関し改めて必要な説明を行うものとする。なお、必要に応じて、理事（理事長、代表業務執行理事及び業務執行理事を除く。）は出席し、説明することができる。
- 3 評議員会は、前項の理事の説明を十分に尊重して、再度決議を行わなければならない。

第八章 会計監査人

第一節 選任及び解任等

(会計監査人の選任)

第五十三条 会計監査人は、評議員会の決議によって選任する。

(会計監査人の任期)

第五十四条 会計監査人の任期は、選任後一年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。ただし、その定時評議員会において別段の決議がされなかったときは、再任されたものとみなす。

(会計監査人の解任)

第五十五条 会計監査人が次の各号のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
- 二 会計監査人としてふさわしくない非行があったとき
- 三 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき

2 監事は、会計監査人が、前項各号のいずれかに該当すると認めるときであって、評議員会の招集を待ついとまがないときその他緊急を要するときは、監事全員の合意により、会計監査人を解任することができる。この場合、監事の互選によって定めた監事は、会計監査人を解任した旨及び解任の理由を、解任後最初に招集される評議員会に報告しなければならない。

(会計監査人の選任及び解任等に関する手続)

第五十六条 評議員会に理事が提出する会計監査人の選任及び解任並びに会計監査人を再任しないことに関する議案の内容は、監事が決定する。

- 2 前項の規定による議案の内容の決定は、監事の過半数の合意によって行わなければならない。
- 3 会計監査人は、会計監査人の選任、解任若しくは不再任又は辞任について、評議員会に出席して意見を述べることができる。
- 4 会計監査人を辞任した者は、辞任後最初に招集される評議員会に出席して、辞任した旨及びその理由を述べるができる。
- 5 理事長は、前項の者に対し、評議員会を招集する旨並びにその日時及び場所を通知しなければならない。

(会計監査人に欠員を生じた場合の措置)

第五十七条 会計監査人が欠けた場合において、遅滞なく会計監査人が選任されないときは、監事は、一時会計監査人の職務を行うべき者を選任しなければならない。

第二節 会計監査人の職務等

(会計監査人の職務等)

第五十八条 会計監査人は、法令で定めるところにより、この法人の計算書類（貸借対照表及び収支計算書をいう。以下同じ。）及びその附属明細書並びに財産目録を監査して会計監査報告を作成し、監事及び理事会に提出する。

- 2 会計監査人は、いつでも、次に掲げる請求をし、又は理事及び職員に対し、会計に関する報告を求めることができる。

- 一 会計帳簿又はこれに関する資料が書面をもって作成されているときは、当該書面又は当該書面の写しの閲覧の請求
 - 二 前号の書面の謄本又は抄本の交付の請求
 - 三 会計帳簿又はこれに関する資料が電磁的記録をもって作成されているときは、当該電磁的記録に記録された事項を法令で定める方法により表示したものの閲覧の請求
 - 四 前号の電磁的記録に記録された事項を電磁的方法であってこの法人の定めたものにより提供することの請求又はその事項を記載した書面の交付の請求
- 3 会計監査人は、その職務を行うため必要があるときは、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

第九章 予算及び事業計画等

(会計年度)

第五十九条 この法人の会計年度は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わるものとする。

(予算、事業計画及び事業に関する中期的な計画)

第六十条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会で決議しなければならない。これに変更を加えようとするときも、同様とする。

- 2 この法人の事業に関する中期的な計画は、五年以上十年以内において理事会で定める期間ごとに、理事長が編成し、理事会で決議しなければならない。これに変更を加えようとするときも、同様とする。

(役員及び評議員の報酬)

第六十一条 役員及び評議員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

- 2 会計監査人に対する報酬等は、監事の過半数の同意を得て、理事会において定める。

(責任の免除)

第六十二条 役員又は会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員又は会計監査人が賠償の責任を負う額から私立学校法第九十二条の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

- 2 理事は、前項の規定に基づく責任の免除（理事の責任の免除に限る。）に関する議案を理事会に提出するには、各監事の同意を得なければならない。
- 3 第一項の決議を行ったときは、理事長は、遅滞なく、私立学校法第九十二条第二項各号に掲げる事項及び責任を免除することに異議がある場合には一月以内に当該異議を述べるべき旨を評議員に通知しなければならない。
- 4 評議員の総数の十分の一以上の評議員が前項の期間内に同項の異議を述べたときは、第一項の規定に基づく責任の免除をしてはならない。

- 5 第一項の決議があった場合において、当該決議後に同項の役員又は会計監査人に対し退職慰労金その他の私立学校法施行規則で定める財産上の利益を与えときは、評議員会の決議による承認を受けなければならない。

(責任限定契約)

第六十三条 理事（理事長、代表業務執行理事、業務執行理事及びこの法人の職員である理事を除く。以下この条において「非業務執行理事」という。）、監事又は会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事、監事又は会計監査人が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金九十二万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法第九十二条の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事、監事又は会計監査人と締結することができる。

第十章 資産及び会計

(資産)

第六十四条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

第六十五条 この法人の資産は、これを分けて基本財産及び運用財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入された財産とする。
- 3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。
- 4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産又は運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第六十六条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会の決議によって、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第六十七条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第六十八条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計)

第六十九条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第七十条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会で決議しなければならない。借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）についても、同様とする。

(事業報告及び決算)

第七十一条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、かつ、第三号から第五号までの書類について会計監査人の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- 一 事業報告
- 二 事業報告の附属明細書
- 三 計算書類
- 四 計算書類の附属明細書
- 五 財産目録

2 理事長は、前項の承認を受けた書類のうち、第一号、第三号及び第五号の書類の内容を定時評議員会に報告し、その意見を聴かなければならない。

(財産目録等の備置き及び閲覧等)

第七十二条 この法人は、毎会計年度終了後三月以内に役員等名簿（役員及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいう。以下第三項及び第七十八条第二号において同じ。）を作成しなければならない。

- 2 この法人は、前条第一項各号及び前項の書類、監査報告、会計監査報告、役員及び評議員に対する報酬等の支給の基準を記載した書類並びにこの寄附行為を事務所に備えて置き、請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供し又はこれらの書類の謄本若しくは抄本を交付しなければならない。
- 3 前項の規定にかかわらず、この法人は、役員等名簿について評議員以外の者から同項の請求があった場合には、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除外して、同項の閲覧をさせ又は交付をすることができる。

(資産総額の変更登記)

第七十三条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後三月以内に登記しなければならない。

第十一章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第七十四条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会の決議及び評議員会の決議（私立学校法第二十三条第一項第四号、第六号（理事会の決議に係る事項を除く。）、第九号（評議員会の決議に係る事項を除く。）、第十一号、第十二号及び第十六号に関する寄附行為の変更にあつては、評議員会への諮問。次項において同じ。）を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、私立学校法施行規則に定める届出事項については、理事会の決議及び評議員会の決議を得て、文部科学大臣に届け出なければならない。

第十二章 解散及び合併

（解散）

第七十五条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

- 一 理事会の決議及び評議員会の決議による決定
- 二 この法人の目的たる事業の成功の不能
- 三 合併
- 四 破産手続開始の決定
- 五 文部科学大臣の解散命令

2 前項第一号又は第二号に掲げる事由による解散は、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

（残余財産の帰属者）

第七十六条 この法人が解散した場合（合併又は破産手続開始の決定によって解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会の決議により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益社団法人若しくは公益財団法人に帰属する。なお、帰属者の選定にあたっては、あらかじめ曹洞宗管長の認証を受けなければならない。

（合併）

第七十七条 この法人が合併しようとするときは、理事会の決議及び評議員会の決議を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第十三章 補則

（情報の公表）

第七十八条 この法人は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、遅滞なく、インターネットの利用により、当該各号に定める事項を公表しなければならない。

- 一 寄附行為若しくは寄附行為変更の認可を受けたとき、又は寄附行為変更の届出をしたとき 寄附行為の内容
- 二 計算書類及び事業報告書並びにこれらの附属明細書、監査報告、会計監査報告、財産目録、役員等名簿並びに役員及び評議員に対する報酬等の支給の基準を記載した書類を作成したとき これらの書類の内容

(公告の方法)

第七十九条 この法人の公告は、この法人のホームページに掲載する方法により行う。

(施行細則)

第八十条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

この法人組織変更当初の役員は次の通りとする。

朽木 正己

藤田 俊訓

坂井 喚三

小出 有三

成田 芳髓

横井 恒次郎

中島 鉄船

田中 俊英

清水 賢芳

平尾 賢宗

森江 良宗

附 則

この寄附行為は、昭和二十六年三月九日より実施する。

この寄附行為は、昭和二十八年四月一日より実施する。

この寄附行為は、昭和三十年七月二十一日より実施する。

この寄附行為は、昭和三十三年四月一日より実施する。

この寄附行為は、昭和三十五年十月二十日より実施する。

この寄附行為は、昭和三十六年三月一日より実施する。

この寄附行為は、昭和三十六年四月一日より実施する。

この寄附行為は、昭和三十七年八月十一日より実施する。

この寄附行為は、昭和三十八年四月二十三日より実施する。

この寄附行為は、昭和三十九年四月一日より実施する。

この寄附行為は、昭和四十年九月六日より実施する。

この寄附行為は、昭和四十四年十二月十五日より実施する。

この寄附行為は、昭和四十五年四月一日より実施する。

この寄附行為は、昭和四十六年七月二十三日より実施する。

この寄附行為は、昭和五十一年十一月九日より実施する。

この寄附行為は、昭和五十二年四月一日より実施する。

この寄附行為は、昭和六十一年四月一日より実施する。

この寄附行為は、昭和六十三年四月一日より実施する。

この寄附行為は、平成元年十月十九日より実施する。

この寄附行為は、平成二年四月一日より実施する。

この寄附行為は、平成四年四月一日より実施する。

この寄附行為は、平成五年四月一日より実施する。

この寄附行為は、平成五年十一月十五日より実施する。

附 則

この寄附行為は、平成七年三月六日より実施する。

附 則

この寄附行為は、平成八年十一月十九日より実施する。

附 則

この寄附行為は、平成九年五月二十日より実施する。

附 則

この寄附行為は、平成九年十二月十九日より実施する。

附 則

平成十年八月十四日文部大臣認可のこの寄附行為は、平成十一年四月一日より施行する。

(愛知学院短期大学の英語科は、改正後の寄附行為第五条の規定にかかわらず平成十一年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。)

附 則

平成十一年二月九日文部大臣認可のこの寄附行為は、平成十一年四月一日より施行する。

附 則

平成十二年六月三十日文部大臣認可のこの寄附行為は、平成十三年四月一日より施行する。

(愛知学院大学短期大学部文科は、改正後の寄附行為第五条の規定にかかわらず平成十三年三月三十一日に当該学科に在籍する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。)

附 則

この寄附行為は、平成十三年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十四年四月一日より施行する。

附 則

平成十三年十二月二十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十四年四月一日より施行する。

附 則

平成十四年七月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十五年四月一日より施行する。

附 則

平成十五年六月二十六日文部科学省設置届出書受理通知のこの寄附行為は、平成十六年四月一日より施行する。

附 則

平成十六年三月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十六年四月一日より施行する。

附 則

平成十六年十一月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十七年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成十七年六月十日）から施行する。

附 則

平成十七年十二月五日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十八年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十八年四月一日より施行する。
（愛知学院大学情報社会政策学部情報社会政策学科の存続に関する経過措置）
愛知学院大学情報社会政策学部情報社会政策学科は、改正後の寄附行為第五条の規定にかかわらず平成十八年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、平成十九年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十九年四月一日より施行する。
（愛知学院大学商学部産業情報学科の存続に関する経過措置）
愛知学院大学商学部産業情報学科は、改正後の寄附行為第五条の規定にかかわらず平成十九年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、平成十九年四月一日より施行する。
（愛知学院大学経営学部国際経営学科の存続に関する経過措置）
愛知学院大学経営学部国際経営学科は、改正後の寄附行為第五条の規定にかかわらず平成十九年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成十九年九月二十一日）より施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十年四月一日より施行する。
（愛知学院大学文学部宗教学科の存続に関する経過措置）
愛知学院大学文学部宗教学科は、改正後の寄附行為第五条の規定にかかわらず平成二十年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

平成十九年十二月三日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十年四月一日より施行する。

附 則

平成二十年十月三十一日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十一年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十一年三月二十五日）から施行する。但し、五条中の薬科学研究科については、平成二十一年四月一日より施行する。

附 則

平成二十二年九月十六日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十二年十月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十三年三月三十日より施行する。

附 則

平成二十三年十月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十四年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十五年四月一日より施行する。

附 則

平成二十六年三月十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十六年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十七年四月一日より施行する。

（愛知学院大学文学部国際文化学科の存続に関する経過措置）

愛知学院大学文学部国際文化学科は、改正後の寄附行為第五条の規定にかかわらず平成二十七年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、平成二十七年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十九年四月一日より施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十九年十月二十三日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、理事会承認の日（平成三十年一月二十四日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成三十年八月二十一日）から施行する。なお、第十一条第二項及び第三項で定める理事の任期及び第十二条で定める理事の定年については、平成三十年四月二日以降に選任する（再任を含む）理事から適用する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（令和元年七月十七日）から施行する。

附 則

令和二年二月七日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、令和二年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為の第五条心理学部心理学科については、令和四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（令和四年九月三十日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、令和五年四月一日から施行する。

（愛知学院大学心身科学部健康科学科及び心身科学部健康栄養学科の存続に関する経過措置）

愛知学院大学心身科学部健康科学科及び心身科学部健康栄養学科は、改正後の寄附行為第五条の規定にかかわらず令和五年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

1 令和六年十一月十八日文部科学大臣認可のこの寄附行為は令和七年四月一日から施行する。

ただし、附則第二項は令和七年三月三十一日から、会計監査人及び常勤監事に関する規定は令和七年度の定時評議員会の終結の時から、それぞれ施行する。

2 令和七年三月三十一日に在任する役員又は評議員であって、令和七年度の定時評議員会の日よりも前に任期が満了するものの任期については、その終期を令和七年度の定時評議員会の終結の時まで伸長する。

3 この寄附行為の施行の際現に在任する役員及び評議員の定数、資格及び構成については、令和七年度の定時評議員会の終結の時までは、なお従前の例による。

4 この寄附行為の施行の際現に在任する役員又は評議員であって、令和七年度の定時評議員会の終結の時以後に任期が満了するものの任期については、令和七年度の定時評議員会の終結の時まで短縮する。